

人生を選べ、キャリアを選べ、家族を、テレビを、洗濯機を、車を、CDプレーヤーを、電動缶切りを選べ、自己中心のガキになることほどみっともないことはない、未来を選べ…。だけど、それがいったい何なんだ？



『トレインスポッティング』旋風、日本上陸！イギリスからとんでもない映画が現れた。アーヴィン・ウェルシュのカルト小説が原作の『トレインスポッティング』だ。イギリスでまず舞台化されて熱狂的な話題を呼び、その興奮も冷めやらぬ96年2月に映画公開。“90年代の『さらば青春の光』”とも評されてブームは頂点に達し、興行成績1位の座を突っ走る大ヒット。原作本も映画公開後には40万部のベストセラーとなった。96年イギリス・アカデミー賞脚色賞を受賞し、5月のカンヌ国際映画祭では公式上映作品としてNo.1の話題を獲得（パーティにはミック・ジャガーやU2のボノも出席）。その後もアメリカをはじめ世界中で社会現象を巻き起こしたブリット・ポップ・ムービーが、いよいよ日本に上陸する。

「陽気で悲惨」な青春群像

スコットランド、エディンバラ。頭が切れて、面白く、病的で、時に無気力な若者、マーク・レントンとその仲間たちは、いつもハイになってるかドラッグを買うため盗みをしているかだ。ベグビーはアル中の上に喧嘩中毒。キレると厄介だがドラッグはやらない。昼間は清楚な女子高生のダイアンは、夜はクラブで男を誘惑。シック・ボーイは女たらしで“007”おたくの“ビョーキ野郎”。スパッドは気のいいヘロイン中毒者。レントンは何度目かのドラッグ断ちを実行中だが、治療の苦しみを和らげる薬座のためには“スコットランド一汚いトイレ”も掻き回す。そんな彼らの友情はやがて崩壊の運命をたどり、レントンだけがそこから逃れるチャンスを手に入れようとする。果たして彼は、どんな未来を選ぶのか。友情と裏切り、人生の選択という普遍的なテーマをクールなユーモアと斬新かつスタイリッシュな映像で描く本作は、今までの青春映画のイメージを突き破る。90年代の「陽気で悲惨」な青春は、痛快なまでに鮮烈だ。

世界へ飛び出した新たな才能たち

監督ダニー・ボイルらの製作チームは、前作『シャロウ・グレイヴ』で一躍脚光を浴び、『エイリアン4』をはじめ殺到するハリウッドの企画を全て振り切って本作を製作。俳優陣も、ビーター・グリーンハウエイ監督の『枕草子』など新作もめじる押しのユアン・マクレガーをはじめ、ロバート・カーライル（『司祭』）、ユエン・ブレナー（『ネイキッド』）、ジョニー・リー・ミラー、ケリー・マクドナルドなど、今後の活躍が期待されるユニークな個性の若手たち。この作品から飛び出した新しい才能が、世界中の観客を魅了する。

ブリット・ポップ・カルチャーの粋

本作のサウンドトラックにはイギー・ポップ、ルー・リードをはじめブライアン・イーノ、プライマル・スクリーム、

ニュー・オーダー、ブラー（ボカルのデーモンは初ソロも披露）、バルブ、アンダーワールド（リミックスCD“ボーン・スリッピー”：ソニー・レコード）と、ブリット・ポップ陣を中心に豪華アーティストが参加。映像と音楽の見事なコラボレーションが、疾走感・躍動感を加速させる。そして衣装担当は人気グループ、オアシスやブラーのスタイリストも務めるロンドン・ファッション界の寵児、レイチェル・フレミング。全世界共通のロゴ・デザインは、サイモン・テイラー率いるイギリス最高峰のクリエイター集団“TOMATO”。今注目を浴びるブリット・ポップ・カルチャーの粋がここに集まった。

キーワードは“トレインスポッティング”

いつもはボーっとしていても、やってきたチャンスは逃さず喰らいつく、レントンこそまさに“トレインスポッティング”な奴。元々は電車おたくの意味だが、特定の場所スポットに留まる意味もあり、原作者はヘロイン中毒のメタファーとして使っている。イギリスでは本作のヒット後は流行のクラブに出入りする人々を“トレインスポッターズ”と呼ぶようになった。

CRITICS!

“ハリウッドの時代は終わった。これは10年に1本のイギリス映画だ。★★★★必見！”（EMPIRE）

“『トレインスポッティング』は、90年代の『時計じかけのオレンジ』だ”（VARIETY）

“カッコよくて、知的。過去の映画を嘲るとんでもない作品” ジャネット・マスリン（N.Y.TIMES）

“興奮して、感動した”

ビーター・トラバース（ROLLING STONE）

“ジャンキー達の青春を、スタイリッシュで躍動的かつ猥雑に描いた、『バルブ・フィクション』へのイギリスからの返答だ” ジョン・パワーズ（U.S.VOGUE）

トレインスポッティング

1996年イギリス／チャンネル・フォー・フィルムズ提供／フィグメント・フィルム＝ザ・ノエル・ゲイ・モーション・ピクチャー・カンパニー作品／1時間33分／カラー／ヴィスタサイズ／日本版字幕：石田泰子 後援：ブリティッシュ・カウンシル／配給：アスミック＝パルコ 監督：ダニー・ボイル／原作：アーヴィン・ウェルシュ（青山出版社刊）／脚色：ジョン・ホッジ／撮影：ブライアン・トゥファン／編集：マサヒロ・ヒラクボ／製作：アンドリュー・マクドナルド／サウンドトラックCD：東芝EMI／主演：ユアン・マクレガー、ユエン・ブレナー、ジョニー・リー・ミラー、ケヴィン・マクキッド、ロバート・カーライル、ケリー・マクドナルド

●1996年第49回カンヌ国際映画祭公式出品作品

●1996年イギリス・アカデミー賞脚色賞受賞



1月18日(土)ロードショー

特別鑑賞券 ¥1400 (当日一般 ¥1800/大・高 ¥1500) 発売中
★劇場窓口でお買い求めの方全員にポスタープレゼント
※劇場窓口、阪急・阪神・東映・エス1、各PG、チケットセリ、チケットぴあ、関西プレイガイド協会にて

上映時間	平日	11:05	1:00	2:55	4:50	6:45	8:40
	日曜	11:05	1:00	2:55	4:50	6:45	

※毎週日曜日は8:40PMの回休映。

FUNKY 8020

PRESENTS

梅田ロフトB1 06(359)1080
テアトル梅田2

